議事

要旨

第51回 システム実用化WGにおける 経6256 施策状況 中間報告についての議論要旨

〇H28年度施策の経6256について当該受託会社から実施内容の説明あり。 主な内容は次の通り。

■経6② 施策「走行映像データベース構築技術の開発及び実証」

- ・収集した映像データをOEM含めた利用者に提供し、データの確認および 評価検討準備を開始。
- ・分析対象シーンの抽出4割完、自動タグ付け機能に対象物までの距離を追加。
- ■経6⑤ 施策「V2X等車外情報の活用に係るセキュリティ技術の研究開発」
- ・脅威分析等のツール開発のため、Jaspar等の関係団体と連携を開始。
- ■経6⑥ 施策「交通事故低減効果詳細見積もりのためのシミュレーション 技術の開発及び実証」
- ・OEMのニーズをヒアリングし、機能/規模/インターフェースの考え方を構築。
- ・ドライバーと歩行者の行動モデルの妥当性検証を実施中。

(1)経6②施策「走行映像データベース」受託者説明

- ・データーベースの実用化への道筋については?
- → 本事業とは別に活用検討のスキームを経産省主導で検討する。
- ・課題となるシーンの網羅性は確保されているか?
 - → 認識システム毎に課題となるシーンは異なるが現在進めているシーン 抽出/分類により対応可能と考える。
- (2)経6⑤ 施策「セキュリティ技術の研究開発」受託者説明
- ・外部との連携の結果、分担含めフォーカスするところをどのように変更するか?
 - → 例えば、脅威分析結果はJasparの結果を利用し、本事業では分析方法の評価を 実施するように計画を変更。
- ・国際標準化についてのアプローチはどうなっているか?
 - → 海外では、鍵管理について議論されているが収束していない模様、一方、ISO -TC204についてはWG16にJAITAと連携して対応する。
- (3) 経6⑥ 施策「シミュレーション技術の開発及び実証」 受託者説明
- ・自動走行のシステムの作りによっては事故が増えるケースも想定され、 そのような事象も対応できるようなシミュレーションとすることが重要。
- ・実験的にモデルを構築するだけではなく、人間の行動を想定してモデルを 定義する手法も可能であるので、モデル構築の工夫をすること。